

“ふわり”

# 熱気球とあそぼう

自閉症の子どもたちと  
その家族のみなさまへ

平成 17 年度熱気球ふれあい事業のご案内

またのき  
あまたのき  
りたのき  
かしのき  
いせりた  
まうた  
した  
またのき  
あまたのき  
りたのき  
かしのき  
いせりた  
まうた  
した



よ  
う  
か  
い  
し  
う



熱気球ふれあい事業は、  
自閉症のお子さんに、  
熱気球のフライトを体験して頂く  
ボランティア活動です。



## 「自閉症児招待 熱気球体験フライト ボランティア」をはじめたきっかけ

日本熱気球連盟所属インストラクター操縦士  
スカイファンタジーバルーンクラブ代表 佐藤和男

私は 20 数年、熱気球を趣味として空を飛んできました。

平成 12 年 2 月に神奈川県秦野市の福祉関係の主催で、熱気球体験を行う機会があり、その中に自閉症児のお子さんがいらっしゃって、熱気球体験後、お子さんのお母さまよりお礼のお手紙を頂いたのです。

そこには、熱気球体験後、お子さんに変化があったことが書かれており、大変喜んでいらっしゃいました。自閉症の治療方法のひとつに、イルカと触れ合う方法がありますが、それと同じように、熱気球とのふれあいも刺激的なものだったのでしょうか。

熱気球のスケールの大きさ、バーナーの光、音、そして 360 度の視界は大人でも刺激的です。熱気球もイルカの触れ合いと同じような刺激があることに気付き、熱気球を体験したことで、今までと違った感覚を体感することで、自閉症の子どもたちに夢や希望が生まれれば、私どもにとっても、最高に有意義なことだ、と思ったのがきっかけでした。

こうしてボランティア活動をスタートし、いろいろな方々からご支援を受けながら、各地で「熱気球ふれあい」を開催してまいりました。日頃から大変な思いをしている保護者の方々と一緒になって楽しめるイベントに、多くのご家族から賛同頂き、期待して頂いています。これからは県内から全国、そして更には世界の方々にも「熱気球ふれあい」に参加して頂き、共通の思いをお持ちの方々と触れ合うのが私の夢であります。

## 届けられたお礼状（抜粋）

「…あの時は、あまりこの子の変化に気づかなかったのですが、気球に乗せていただいてから、本人に自信（？）がついたのか、変化が現れてきました。

まず、言葉が多く出るようになりました。今までは、くり返しくり返しこちらが教えた言葉をやっと思う程度でした。質問に対しても、「はい」と答えるだけで、返事はあまり返ってこなかったのです。

ところが近頃は、「おつかいに行きますか？」の問いに、「行くです」とか、「行くでしょう」と言ってくるのです。時には「行かないの」とも。

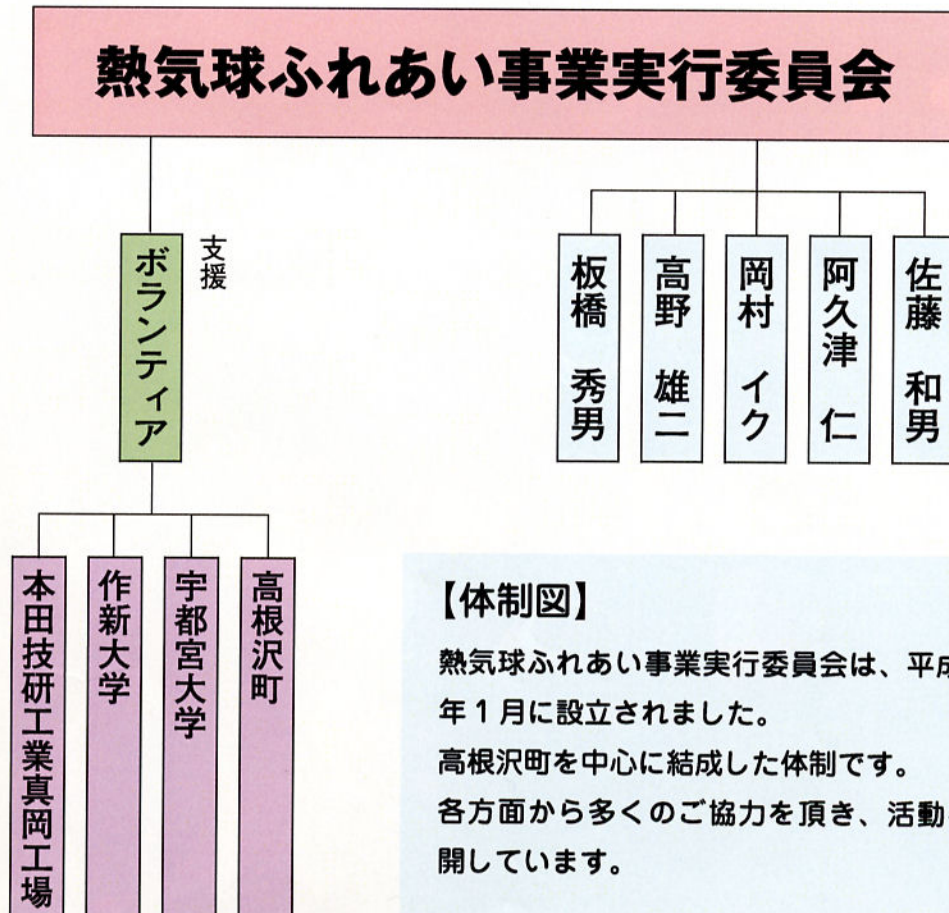
次に行動を自分で考えておこすようになりました。……

ほんとうにありがとうございました。心からの感謝でいっぱいです。また乗せていただける機会があったら、是非、お願いしたいです。……

気球は素晴らしいものだと思います。

一人でも多くの子供達が経験できて、多くのことが学べるといいなって思っています。学べなくても感動を味わえるだけでもいいなって思っています。

心からの感謝を込めて」



### 【体制図】

熱気球ふれあい事業実行委員会は、平成17年1月に設立されました。

高根沢町を中心に結成した体制です。

各方面から多くのご協力を頂き、活動を展開しています。

# 熱気球のすばらしさ

ふんわり、まるで体が浮いているかのような感覚

最初は、思わず飛び上がってしまうほど驚くバーナーの音、炎の光

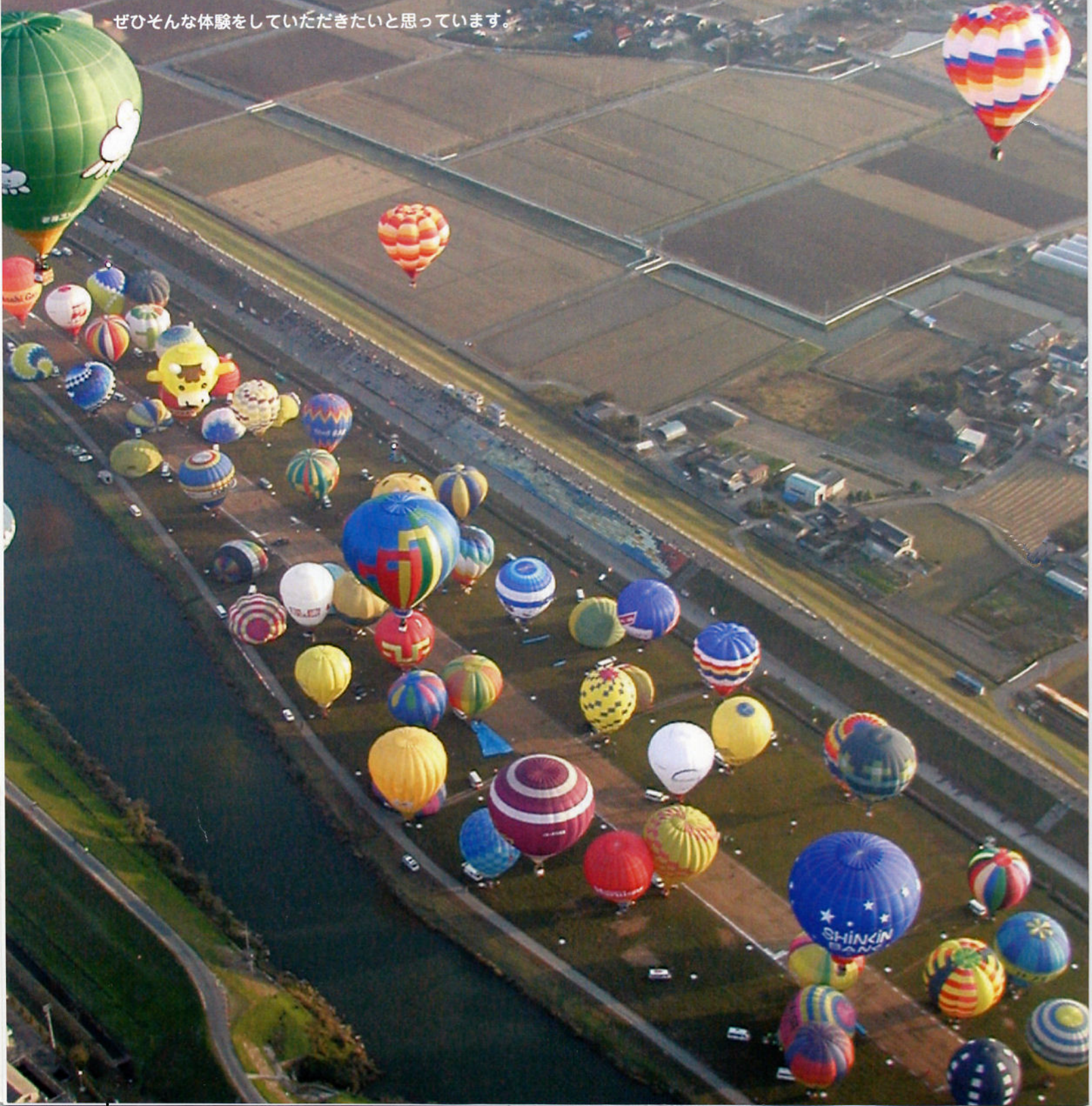
どんどん熱気球がふくらんでいくワクワク感

熱気球が立ち上げるダイナミックな瞬間

360度くりと見渡す快感

そしてみんなの協力があってはじめて熱気球ができる、その達成感

ぜひそんな体験をしていただきたいと思っています。



# 平成17年度 熱気球ふれあい事業の記録

栃木県高根沢町の寛大なご理解を得て、高根沢町にて開催しています。

熱気球ふれあい事業は、

- ・熱気球の刺激的なすばらしさで、自閉症の活性化および自立をお手伝いすること
- ・熱気球を通じて、ご家族同士の「交流の場」を提供することを目的としています。

●平成17年8月27日 ボランティア説明会を開催  
ふれあい事業をスムーズに運営するため、ボランティアの方々に勉強会に参加していただきました。



●平成17年11月26日 ボランティア説明会を開催  
地元の方や近隣の高校生ボランティアも参加しました。

- ・講師を招き、自閉症についての勉強会を開催しました。
- ・ミニ気球作りの実習を行い、屋外で実際に飛ばしました。



●平成18年1月21日～22日  
ボランティアリーダー研修会を開催  
より充実したふれあい事業を目指し  
リーダー研修会を開催しました。



- ・小グループでボランティア活性化を検討して頂きました。
- ・グループ討議も活発にされ、模造紙に書いて発表用にまとめました。
- ・グループ発表ではいろいろなアイデアが出され、とても勉強になりました。



## 平成 17 年度 熱気球ふれあい事業の記録

●平成 17 年 9 月 17 日 栃木県高根沢町  
町民ひろばにて

「熱気球ふれあい in 高根沢」を開催  
参加された 30 家族全員が、熱気球のフライトを  
体験することができました。

- ・室内では、ミニ気球作り、みんなとても上手にできました。
- ・熱気球ふれあい事業を看板で案内いたしました。





●平成 17 年 12 月 3 日 栃木県高根沢町 町民ひろば  
にて「熱気球ふれあい in 高根沢」を開催  
天候に恵まれ穏やかな熱気球フライトになりました。

- ・新しくペーパークラフトに挑戦しました。
- ・上がるたびに歓声が湧き上り楽しくミニ気球作りを致しました。
- ・ぬりえコーナー、わたあめコーナーも大盛況でした。



# いただいたお礼状

今日は、熱気球ふれあい事業にご参加いただきありがとうございました。参加されて、何か気づいたこと、感想、要望等ございましたらぜひお知らせ下さい。思い出の絵日記なども大歓迎です。

今日は、熱気球ふれあい事業にご参加いただきありがとうございました。参加されて、何か気づいたこと、感想、要望等ございましたらぜひお知らせ下さい。思い出の絵日記なども大歓迎です。

先日はお世話になりました。熱気球に乗ることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。



先日、お母さん、お父さん、お兄さんと一緒に熱気球に乗りました。とても楽しかったです。ありがとうございました。また、来年も参加したいと思います。

お世話になりました。ありがとうございました。

ありがとう  
お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんなのおかげです。

先日はお世話になりました。私ははじめて熱気球に乗ったのでとても楽しかったです。熱気球から見える景色は最高でした!! ホットココーンとけたあめは very good です。自閉症の人のボランティアをはじめたのは、最初は何をしても自閉症の子から話しかけてくれなかったのがとても残念でした。途中でカードが壊れてしまったので、途中で一人ひとりに話しかけてあげたいです。

返事遅くなって申し訳ありません。熱気球体験イベントは、スタッフの協力のおかげでとても楽しかったです。また、来年も参加したいと思います。

先日は、熱気球に乗ることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。また、来年も参加したいと思います。

熱気球は、お天気に左右されることが多いので、当日中止の可能性があります。ご了承ください。また、熱気球に乗ることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。

お世話になりました。ありがとうございました。また、来年も参加したいと思います。



先日は、熱気球に乗ることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。また、来年も参加したいと思います。





# たくさんのメディアに 紹介していただきました

## 障害ある子供も熱気球を

来月3日 参加家族を募集

自閉症などの障害がある子供に熱気球を乗しんでもらおうと、「熱気球ふれあいin高根沢」が12月3日、高根沢町石末の町民広場で開かれる。

栃木

同町宝積寺、日本気球連盟のインストラクター、佐藤和男さん(58)を中心に実行委員会を組織し、参加する家族を募集している。

佐藤さんは5年前、神奈川県秦野市で障害者を対象に開いたイベントで、小学5年の自閉症の男の子を熱気球に乗せた。後日、男の子の母親から「熱気球に乗ってから、自分の見たいテレビ

番組を主張するようになった。多くの子供たちを乗せてあげてほしい」と感謝の言葉がつけられた札状が届いた。佐藤さんは、「こんなに喜んでくれる人がいるのか」と驚き、高根沢町や千葉県、青森県などで、自閉症児などを対象にしたイベントを企画するようになった。

佐藤さんは、「自閉症児を持つ親は子供がパニ



過去のイベントでミニ気球作りを楽しむ家族連れ。佐藤和男さん提供

▲平成17年11月29日 毎日新聞

ックを起こすと、周りから親の育てが悪いという目で見られ、つらい思いをしている。子供が楽しむのはもちろん、親がほっと息を抜けるような行事にしていきたい」と話

す。  
午前8時から正午まで。対象は自閉症や知的障害の子供を持つ家族で、参加費は500円。熱気球搭乗体験のほか、ミニ気球作りなどを予定

している。申し込み、問い合わせは佐藤さん(☎028・675・6211)、または同町生涯学習課(☎028・675・3175)。12月1日締め切り。【戸上文恵】

### 自閉症児対象 熱気球体験を

高根沢で来月3日

【高根沢】熱気球ふれあい事業実行委員会(佐藤和男代表)は12月3日、石末の町民広場で「熱気球ふれあいin高根沢」を開く。

自閉症(知的障害)の子どもがいる家族が対象で、熱気球の搭乗体験や

ミニ気球作り、塗り絵などが楽しめる。開催時間は午前8時から正午まで。参加料は一家族五百円。事前に町生涯学習課に申し込む。問い合わせは同課☎028・675・3175へ。

▲平成17年12月3日 下野新聞

裕美助手、同科の志村直人講師が担当する。  
20・4・46870。フ  
アスコ0120・652  
2008・627・1  
080。



熱気球の愛好家クルー  
「スカイファンタジー  
バルーンクラブ」(佐藤  
和男代表)は、自閉症児  
と、その家族を対象とし  
た熱気球体験会「熱気球ふ  
れあい」の参加者を募集  
している。

### 自閉症児対象 熱気球の体験会

来月、愛好団体が高根沢で

体験会は八月十一日に  
高根沢町石末の町民広場  
で開かれる。同クラブは  
五年前から全国でイベン  
トを開催、県内は回が  
二回目となる。  
自閉症は、脳の機能不  
全が原因で生じる発達障  
害。百人に一人という割  
合で発症する。同じ行動  
を繰り返したり、一つの  
物に執着したり、感覚に  
過敏さを感じたり、周囲  
からの声や光に敏感にな  
り、親の育て方に問題  
はないが、周囲から「し  
つけが悪い」と偏見を受  
けているという。  
当日は、ロープで固定  
された熱気球に家族で搭  
乗できる。約二十分の高  
空を浮かび上がり、ミニ  
熱気球を作り、実際に飛  
して遊ぶコーナーも。  
佐藤代表は「二人でも  
多くの子も一緒に気球  
を揺り返したり、一つの  
物に触れ合う楽しさを感じ  
てほしい」と話している。  
定員約三十組。参加費は  
家族五百円。六月三日  
までに申し込み(問)佐  
藤代表方028・67  
5・621。

▲平成17年11月29日 下野新聞

## 熱気球 ふれあい高根沢

参加者募集中

自閉症(知的障害)のお子様がいるご家族を対象に  
熱気球ふれあい企画への参加者を募集しています。

日時 平成17年12月3日(土)  
午前8時~12時

場所 栃木県 高根沢町 町民広場 特設会場  
〒370-0101 高根沢町体育館で決行

費用 500円/1家族

企画内容

- 熱気球 家族体験
- ミニ熱気球作り
- お楽しみコーナー

協賛先

- 熱気球代表 佐藤和男  
TEL:028-675-6211  
FAX: takariballoon@net.ne.jp
- 高根沢町生涯学習課  
TEL:028-675-3175  
FAX: mcs@town.takarazawa.lg.jp

主催 熱気球ふれあい事業 実行委員会  
後援 高根沢町教育委員会  
協賛 県立行政法人福祉医療機構  
(高根沢・高根沢町民会)

## 秋晴れの空にフワリ

### 高根沢 熱気球の体験搭乗



親子を乗せて、秋空に浮かぶ熱気球(高根沢町町民広場で)

自閉症の子供を持つ家  
族を招待し、熱気球に乗  
ることで明るい気持ちに  
なってもらおうと「熱  
気球ふれあい高根沢」  
(読売新聞宇都宮支局な  
ど後援)が17日、高根沢  
町石末の町民広場で開か  
れた。多くの家族連れが  
熱気球の体験搭乗コーナ  
ーに列を作り、上空から  
景色を楽しんだ。  
体験搭乗は、熱気球の愛  
好者で作る同好会「宇都宮  
スカイファンタジークラ  
ブ」が企画。熱気球は、高  
根沢と高根沢の間に地上約  
200mの高さで静止するよう  
にロープで地上に保留し、  
熱気球はふわりと浮き上  
がり、上空からは「すご  
い、すごい」と、子供た  
ちのにぎやかな声が響い  
ていた。  
祖父と参加した矢板市の  
中学3年の男子生徒(15)は  
「熱気球に乗るのは初めて。  
高かったけど、全然怖くな  
かった。田んぼがきれいだ  
った」とうれしそうに話  
していた。同クラブ代表の佐  
藤和男さん(57)は「大空に  
浮かぶことで子供たちは勇  
気づけられたと思う。今後  
も熱気球による活動を続け  
たい」と話していた。

▲平成17年9月17日 読売新聞

## 熱気球ふれあい事業のこれから

開催を重ねるごとに、反響が多く、新聞等で掲載されることも多くなりました。

このイベントは、参加する人もボランティアで、リピーターも数多くいらっしゃいます。これからもたくさんの方が参加できる体制を作り、またこの「熱気球ふれあい事業」に参加したことで、ご家族やボランティアの方々が、楽しく、仲良く、末永くお付き合いができる、そんなイベントにしていきたいです。

今後は、全国各地に数多くある地元ボランティア団体と一緒に展開し、自閉症児から知的障害者、さらには健常者がこのイベントに参加し、障害者を理解する「熱気球ふれあい」にできれば、と思っています。

# ふんわりあたたかい 気持ちになれるから…

機会がありましたら、「熱気球ふれあい」にぜひご参加ください。  
お会いできることを楽しみにしています。



高根沢町町民ひろばにて

後援：独立行政法人福祉医療機構（高齢者・障害者福祉基金）

発行：熱気球ふれあい事業実行委員会

連絡先：実行委員会代表 佐藤和男（028-675-6211）

平成 18 年 3 月